



～挑戦・輝き・感動～

(いのち)

生命の輝く学校

令和8年7月1日（水）

相模原市立共和中学校

令和8年度 第4号

「安全・安心」の土台の上に 咲く、確かな成長の足跡

～関西・鎌倉校外学習を終えて～

校長 岩堀 洋一

6月17日（水）から19日（金）までの三日間、3年生の「関西校外学習」を実施し、滋賀・京都方面へと行ってまいりました。

今年度の初めを振り返りますと、沖縄県辺野古における事故や、新潟県での部活動借上げバスの事故など、校外の教育活動において命に関わる大変痛ましい重大事故が複数発生いたしました。こうした背景の中での実施となった今回の関西校外学習は、例年にも増して、学校全体が極めて大きな緊張感に包まれてのスタートとなりました。

全国のどの学校においても、生徒一人一人のさまざまな資質や能力を伸ばすため、3年間を見通した明確なねらいのもとで日々の教育活動が展開されています。しかし、子どもたちの「安全・安心」の担保なくしては、いかに高尚な教育的ねらいを掲げたとしても、その活動は決して認められるべきではありません。私たち教職員は、日常の校内での指導はもちろんのこと、特に校外学習においては、事前に教職員自らが現地へ赴いて綿密な下見（現地調査）を重ねています。子どもたちが安全に、そして安心して活動に没頭できる環境を徹底的に確認し、リスクを排除した上で初めて、教育活動としての「ゴーサイン」が出されるのです。全国で起きた痛ましい出来事決して他人事とせず、本校でも例年以上の危機意識を持って、事前の周到な準備と安全対策を積み重ねて当日を迎えました。

毎年5月になると、その年度の実行委員長が、校外学習のしおりの「巻頭言」の執筆依頼に校長室を訪ねてくれます。決して文才があるとは

言えない私は、いつも頭を悩ませながらも、この貴重な教育活動に込める熱い想いや願いを、限られた字数の中で取捨選択し、言葉を紡いで実行委員長に託します。今回のしおりで私が示したテーマは、「探究的な学び」と、社会の一員としての「けじめある行動」でした。そして、このねらいを具現化するために、生徒たち自身が知恵を絞って創り上げたスローガンは「関西を巡り、深める学び」というものでした。

この三日間、私は朝起きてから夜就寝するまで、すべての行程を生徒たちとほぼ共にいたしました。実際に彼らの動向を間近で見守り、さらに帰校後、生徒一人一人が綴った振り返りの文章を読ませてもらったとき、そこには学校の座学だけでは決して得られない、生きた学びの成果が満ちあふれていました。多くの生徒が自覚していた主な成果は、大きく次の5点に集約されます。

1. 集団行動における協調性と絆の深化

班員やクラスメイトと協力し、互いを思いやって行動することで、集団としての団結力や仲間との絆を強めることができたこと

2. 自律的な時間管理と公共マナーの意識

「10分前行動・5分前集合」の徹底や、公共施設・交通機関におけるマナーを意識し、社会の一員としての規律ある行動が定着したこと

3. 主体的な課題解決と臨機応変な対応力

電車の遅延やコース変更といった予期せぬトラブルに対し、自分たちで調べ、判断し、行動する力が身についたこと

4. 実体験を通じた探究心の向上と学びの深化

事前学習で調べた知識と現地での実体験を結びつけ、歴史や文化、建築への理解を多角的に深めることができたこと

5. 役割に対する責任感とリーダーシップの醸成

班長や各係〔学習、コース、保健等〕としての役割を責任持って果たし、集団を支える一員としての自覚が高まったこと

これらの成果は、2年次における「鎌倉校外

学習」の経験を含め、本校が3年間を通して戦略的に積み重ねてきた校外学習の体系があったからこそ結実したものです。生徒たちにとって、この三日間は集団における個のあり方を確立すると同時に、多様な他者とどのように共生していくかを深く学ぶ、かけがえのない機会となりました。

初日の出発式において、私は生徒たちに、コロナ禍当時の話をいたしました。当時は全国の多くの中学3年生が修学旅行の中止を余儀なくされ、デジタル技術による「オンライン修学旅行」で、行ったかのような気分を味わう体験に留まらざるを得なかった背景があります。しかし、今回私たちが実現した関西校外学習は、オンラインの画面越しでは絶対に味わうことのできない、五感をフルに活用した密度の濃い三日間であり、あらゆる場面で生きた学びを得ることができました。

往々にして、観光を楽しむだけ、あるいは有名なお土産を買うだけといった「単なる思い出づくり」に終始してしまいがちな修学旅行ですが、本校の生徒たちは違いました。一人一人が明確な探究テーマを胸に抱き、特に1・2日目の班別自主行動において、現地で実際に見て、聴いて、肌で感じ取った経験は、何物にも代えがたい貴重な財産となったと確信しています。先日拝読した、全日本中学校長会の機関誌の巻頭言に、修学旅行のあり方について前年度の副会長による次のような主張が掲載されていました。「かつての修学旅行は、旅行先で見聞を広め、体験活動を通して仲間との思い出を作ることに重きが置かれていた。しかし、次期学習指導要領に向け、教科横断的な学びや総合的な学習の時間の充実、探究学習への主体的な取り組みが強く求められる昨今、修学旅行においても『学びとしての質』をいかに高めるかが厳しく問われている」

本校が、他校で一般的に使われている「修学旅行」という名称ではなく、あえて「関西校外学習」と銘打ち続けている理由が、まさにここにあります。これは今から30年前、当時の先輩教師たちが熱い



議論と検討を重ねて創り上げた、「探究的な学び」を柱とする3年間を見通した独自の校外学習カリキュラムなのです。その高き志と教育理念が、時代を超えて今も脈々と受け継がれていることを、今回の三日間で改めて強く実感いたしました。

この学校だよりの原稿を執筆しているさなか、2年生においても「鎌倉校外学習」が実施され、先日、生徒たちの振り返りを読む機会を得ました。そこにもまた、「班員との協力・対話を通じた絆の深化」「状況に応じた時間管理と計画の遂行」「鎌倉の歴史・文化に対する実感を伴う学び」「教員に頼らない自律的な行動の実践」「地域社会・他者との積極的な交流」といった、3年生に負けず劣らずの確かな成長の跡が刻まれていました。

今回の行事を経て、どの学年の生徒たちも、総合的な学習の時間の中でさらに「探究的な学び」を深めていくことと思います。保護者の皆様におかれましては、ぜひこの学校だよりを一つのきっかけとしていただき、お子様が持ち帰ったしおりの「校長の巻頭言」や「学年主任のことば」、「実行委員長のことば」を今一度一緒に読み返してみてください。そして、今回お世話になったすべての方々へ感謝の気持ちを馳せるとともに、現地で得た学びを今後の日々の生活に噛み締め、さらなる人間的な成長へと繋げていってくれることを心から願っています。



7月の主な予定

相模原市総合体育大会開催(6/27～)

1日(水) PTA本部役員会・運営委員会
給食試食会

2日(木) 体育実行委員会・文化実行委員会
環境福祉委員会

8日(水) 学習相談日

10日(金) 三者面談

13日(月) 三者面談

14日(火) 三者面談

15日(水) 三者面談

16日(木) 学年集会、大掃除

17日(金) 1学期終業式

18日(土) 夏季休業開始(～8/24)